

## 甲状腺外科草子 13

### 「鬼貫」首相就任

杉野 圭三

#### 鈴木貫太郎内閣誕生

敗戦の色濃い昭和 20 年 4 月 7 日、小磯國昭の後任として「鬼貫」と呼ばれた鈴木貫太郎が第 42 代首相に就任した。「軍人は政治に関与すべきではない」という持論の鈴木を説得したのは重臣会議のメンバーだけではなく、最後は昭和天皇の「この重大なときにあたって、もうほかに人はいない。頼むから、どうか曲げて承知してもらいたい」という言葉であった。

#### 組閣人事

鈴木は終戦に向けての閣内人事で、杉山陸相に陸軍航空総監の阿南惟幾を陸相として要請した。陸軍は、「戦争目的の完遂」、「本土決戦のための陸軍の企画の実行」など、到底受け入れることができない無理な要望を出したが、鈴木は即座に受け入れ杉山を拍子抜けさせ、阿南を閣内に入れることに成功した（政治家以上に腹の据わった策士である！）。阿南は鈴木が侍従長の時に、陸軍の侍従を務め肝胆相照らす間柄であった。

海相は辞任を強く希望する米内光政を留任させ、書記官長に岡田啓介の女婿である迫水久常を配置する強力な布陣で臨んでいる。



阿南惟幾

米内光政

迫水久常

元より、本土決戦など全く念頭にない首相であるが、終戦への根回し・布石を着実にやっている。



鈴木内閣 1945 年 4 月 7 日、第 42 代総理大臣 (77 歳)

#### 組閣声明の抜粋

『今日、私に大命が降下いたしました以上、私の最後のご奉公と考えますと同時に、まず私が一億国民諸君の真っ先に立って、死に花を咲かす。国民諸君は、私の屍を踏み越えて、国運の打開に邁進されることを確信いたしました。謹んで拝受いたしましたのであります』

#### ルーズベルト大統領への哀悼の辞

首相就任後、一週間も経たない 4 月 13 日、ルーズベルト大統領が脳溢血で急死し、首相は共同通信の取材で哀悼の辞を表した。

『アメリカが今日の有利な地位を占めるに至ったのは彼のおかげであることを認めざるを得ません。彼の死去がアメリカ国民にとって意味する大きな損失をよく同感できます。私の深い哀悼の意をアメリカ国民に向けて送ります (抜粋)』

この声明は、日本首相の「礼儀正しさ、武士道精神の発露」であると世界的に大きな反響をもたらした。終戦工作を念頭に入れた優れた外交感覚である。

## 施政方針演説(昭和20年6月9日)での「天罰」発言

施政方針演説の中で首相は大正7年3月練習艦隊司令官としてサンフランシスコの歓迎会で行った演説を入れてほしいとの要望を迫水書記官長にしている。問題の部分は、『太平洋は名の如く平和の海にして、日米交易の為に天の与えたる恩恵なり。若し之を軍隊輸送の為に用ふるが如きことあらば、必ずや両国共に天罰を受くべしと警告したのであります』

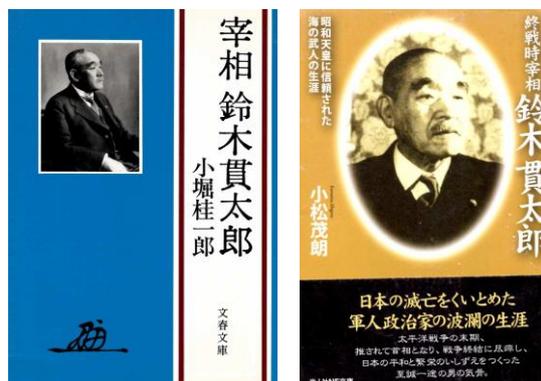
このサンフランシスコでのスピーチは現地で大好評であり、新聞にも取り上げられている。同時通訳したのは、佐藤一郎大尉（後に中将で退役、海兵36期首席、1889-1958）であり、岸信介、佐藤栄作首相の長兄である。自伝では「司令官の日本語演説よりは佐藤君の英語演説のほうがよほど能弁だったと大笑いになった」とある。

しかし、この施政方針演説原稿は6月7日の閣議で、「天罰」の部分が問題となり、修正されることとなった。

首相は『これは改悪だ、意図する所が伝わらない、これでは演説する意味が無い』と大いに落胆した。当日、迫水氏は総理に変更部分の説明をしたが、生返事なので『原案のほうがよければ、原案通りにしましょうか』『キミいいかね』と言われ、直前で原案通りに戻し演説が行われた。これが有名な「天罰天祐事件」となり、国会で大いにもめ、倒閣運動が起こることとなった。

この事態を鎮静化させたのは、阿南陸相の努力であった。阿南は敵対関係を演じながらも、陸軍内部の倒閣運動

に加担する過激派を制し内閣を援護した。この天罰発言はアメリカとの外交交渉継続への明確なメッセージである。



首相演説後、国会委員会は大混乱となり、一旦休憩となった。「閣僚一同打ちのめされ、お通夜のようなであったが、総理は一人泰然とし、葉巻を吸いながら新聞を広げていた」と迫水氏は回想している。

ロシア艦隊の砲弾や二・二六の銃弾の嵐を経験した「鬼貫」には国会委員会での糾弾などは些細な出来事だったのかもしれない。

## 参考文献

1. 半藤一利、日本の一番長い日（決定版）、文春文庫、2006.
2. 立石優、鈴木貫太郎。PHP文庫、2000.
3. 小堀桂一郎、宰相 鈴木貫太郎。文春文庫、1987.
4. 小松茂朗、終戦時宰相 鈴木貫太郎。光人社 NF 文庫、2015.

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2022年1月5日